

厳しい時代だからこそ町民の皆様としっかりと手を取り合いながら、知恵を出し合いながら、まちづくりを進めていくことが今まで以上に必要になってきていると思います。

これからも町民の皆様が力を充分発揮できるように、お手伝いをさせていただき「町民一人ひとりが本当の意味で住みよいと思えるまちづくり」を目指します。

第一 農工商併進の活力あるまちづくり

農業をとりまく状況は非常に厳しい現状ですが、まず農業の担い手を育て農業所得の向上を図ることが大切であると考えています。そのためには、農業経営基盤の整備や環境整備が必要であり、それが経営効果を高めることにつながると考えています。

むらづくり交付金事業や北部畑総事業に取り組み、農道、水路などの環境整備を行っているところです。迫井手地区圃場整備については、現在、埋蔵文化財発掘調査を進めており、その後、工事着手に入ることとしており、受益農家の方々と十分話し合い、省力化や生産性の向上を図り、特産品のブランド化につなげていきたいと思っています。さらに、矢護川地区の基盤整備事業についても、受益者の方々と

相談をしながら、推進をしていきたいと考えています。

今後とも関係機関と十分に連携をとりながら農家の経営安定に努めます。

企業誘致につきましては、大津南部工業団地が、長年の懸案でありましたが、完売し企業が立地することができました。本田技研工業株式会社熊本製作所には、国内の二輪車生産を集約した世界のマザー工場としての役割が大いに期待されているところです。また本田技研南通りから国道325号への4車線化を進めています。しかし突然の世界経済恐慌にみまわれ、世界経済が低迷しており1日も早い経済回復を切に願っているところです。

そのようななか、町では、企業誘致パートナー制度を定め、企業立地動向についての情報交換などを行い、また今年度から雇用対策として、町民の皆様を対象にした企業などへの就職斡旋に取り組みことにしています。

やはり企業誘致に力を入れることが、さまざまな相乗効果を生み、農工商併進のまちづくりにつながるものと考えており、今後も、引き続き積極的に企業誘致を推進したいと考えています。

商店街につきましては、中央バス停留所に今後、まちづくり交流センター整備を計画しており、その整備内容は町民の皆様としっかりと時間をかけて話し合い

を進めていかななくてはならないと思っています。

旧街道沿いには宿場町としての歴史があったことなどからまちなみを歩いている、光・風・音を感じて五感が癒されるような整備をしていきたいと考えています。

さらに肥後大津駅を阿蘇くまもと空港の玄関口として位置づけるとともに、九州新幹線開業に向けて阿蘇観光ルートの入り口としての機能強化を図ります。

第二 少子高齢化社会に活力あるまちづくり

少子化につきましては、核家族化、夫婦共働きの世帯が増加傾向にあり、今後も安心して子どもを産み、育てる環境づくりの支援をしていきたいと考えています。また地域福祉計画については、森地区をはじめ、5地区でモデル事業として取り組んでいただいています。高齢者を地域で支え、ともに助け合えることができるような地域社会づくりを目指しています。

今後は、3年間の活動を検証して策定した大津町地域福祉計画及び地域福祉活動計画を基に、地域福祉がそれぞれの地域に広がるように推進したいと思っています。さらに地域包括支援センターを核として、総合的な相談と福祉情報の発信に、しっかりと取り組みます。

町の美しくて素晴らしい自然環境を守り、次世代に継承できるような施策を推進します。

第七 人を大切に作るまちづくり

21世紀は、「人権の世紀」と言われています。人権啓発福祉センターを核として、護川校区をモデルに、人権啓発推進委員を配置し、人とひととの豊かな関係を築き、助け合いとふれあいを大切にしようとして「人権のまちづくり」を進めているところです。

障害のある人や、高齢者、男女などの個性や能力を認め合い、すべての人が、等しく、その能力を発揮できる機会を確保するとともに、一人ひとりの人権が尊重され、皆様が心豊かに暮らせる「人をたいせつにするまちづくり」に努めます。

第八 地域文化・スポーツの振興

平成19年度から地域づくり活動支援事業の取り組みを始めたところですが、それぞれの地域における活動で、地域のつながりができ、さらにふるさと意識の高まりができたものと感じています。また「まちづくり交付金事業」を利用

第四 子育ての町日本一のまちづくり

次世代を担っていく町の宝である子どもたちを心身ともに健やかにしっかりと育てていかなければならないと考えています。保育所施設整備補助金を通して、定員の増を行うなどの環境整備により保育所待機児童の解消に努めているところです。

また、私立幼稚園に対する入園料補助制度を設け、乳幼児医療費補助についても小学校6年生まで対象を拡大しました。さらにインフルエンザ予防接種の補助制度を今年度から対象を3歳以上のすべての町民に拡大することとしています。また、私立幼稚園における延長保育、一時保育、休日保育など様々な子育て支援施策を行っているところです。今後も、保護者の経済的負担の軽減のみならず、身体的、心理的負担の軽減を図るための支援を推進してまいります。

またアルコール工場跡地の建物を改修し、子育て支援関連の拠点として、安心して子どもを生み育てることができるよう、子育てのまち大津に向けて取り組みとともに後期次世代育成支援行動計画を策定します。

さらに各学校に学習支援指導員及び特別支援指導員を配置するとともに、大津中学校敷地内に設置した教育支援センター、文化ホールや昭和園テニスコートなどの改修整備を行ったところです。施設の利用者も増加し、文化の振興や健康づくりにもつながるものと考えています。

平成21年度には大津地区公民館分館の移転新築工事を行い、地域交流施設として整備することとしています。総合運動公園、総合体育館の利用促進も図り、健康づくりにつなげていきたいと考えています。すべての世代が、地域づくりやスポーツを通して生きがいづくりや健康づくりができる体制づくりに努めてまいります。

以上、町政全般の運営に関する基本的な考え方についての1期4年間の取組状況と、今後のまちづくりにおける私の考えの一端を申し上げます。しかし、今までの右肩上がりの経済状況から大きく変わり、これからは非常に厳しい状況が待ち構えています。そういう時代だからこそ、みんなで力を合わせて創意工夫をしていくことが求められています。

私も、今一度初心に戻り「人と自然にやさしい、心かよいあう、まち」づくりのために、そして大津町に住んでいる人をはじめ大津町で働いている人などすべての人たちが「来て良かった、住んでよか街」と思えるまちづくりのために全力をあげて取り組んでいきます。

ターで児童生徒や先生たちの様々な悩みに対応しながら、安心して子どもたちが学校で勉強ができるよう、体制を整えるとともに、子どもたちの学力向上に取り組みます。

また大津小学校の過大規模解消のため大津小学校の分離校の建設を進めます。

第五 安心、安全に暮らせるまちづくり

生活に身近な道路整備については、側溝整備など順次、計画的に整備を進めてきたところです。また長年の懸案だった都市計画道路「駅前楽善線」に取りかかり、町の南北道路整備と駅周辺の整備を進めています。

さらに肥後大津駅周辺整備計画についての内容検討をすすめ、将来のまちづくりを見据えた肥後大津駅周辺整備計画のビジョンを策定します。

また町の公共交通についての課題に総合的に取り組むために、基本方針を定め、地域公共交通総合連携計画を策定します。

防犯については、小・中学校に防犯カメラを年次計画で整備をしており、子どもたちの学校生活の安全確保に取り組んでいます。またボランティアの方の協力で、役場設置の青色灯パトロールカーで、町内の防犯パトロールを実施しています。

第六 美しい自然環境を守るまちづくり

地下水の涵養のために水田の水張りや「環境の森」「広葉樹の森」に植樹を実施しており、また、再生資源集団回収助成対象額を増額し、ごみの減量化と分別の徹底を図り、資源循環型社会の構築に努めているところです。

本田技研工業株式会社熊本製作所敷地内に、太陽電池の製造・販売を手がける株式会社ホンダソルテックが立地し、一般住宅向け商品の販売や公共・産業用太陽電池の販売を始めています。クリーンエネルギー利用を積極的に推進するために、平成19年度から太陽光発電システム補助制度を設け、引き続き地球温暖化対策に努めています。今後も引き続き、大津